

Information

第11回市民公開講座開催しました！

5月13日（土）横浜市青葉公会堂において「第11回市民公開講座」を開催しました。「今日から始められる予防法～健康な生活・体を手に入れよう～」をメインテーマに、院長 森本将史、副院長 吉澤毎樹、リハビリテーション科医長 浅井泰雅、管理栄養士が講師を務めました。当日はあいにくの天候にもかかわらず325名もの多くの方にご参加いただきました。次回、第12回市民公開講座は10月21日（土）を予定しております。ぜひ、ご参加ください！！



ホームページが新しくなりました！

受付・診察時間や外来医師担当表、診療科目、面会時間など様々なご案内をしております。常勤医師紹介や院内施設紹介など写真を多く取り入れ、より見やすくなっております。スマートフォンからのアクセスも可能になりました。

また、外来医師の変更がすぐわかるようになりました！ぜひ、ご覧ください！



脱水症にならないように・・・



夏になると、汗を多くかき水分が失われ、熱中症になる可能性があります。脱水を予防するためには、こまめな水分補給が必要です。水分補給に最適な飲み物はなにがよいのでしょうか。スポーツドリンクがいいのではないかとと思われる方も多いのではないのでしょうか。実は・・・スポーツドリンクは砂糖や食塩が多く含まれているので脱水予防にはおススメしません。

脱水予防に最適な飲み物は、水やお茶なのです！水やお茶は余分な糖をとらずに水分補給をすることができます。また、お茶の中でも麦茶・ほうじ茶はカフェインが少ないので特におススメです。

水やお茶をこまめにとって、脱水を予防しましょう！！！！



病気に関する疑問・ご質問、
当院へのご要望・ご意見などはこちらまで

shin-hp@terra.dti.ne.jp

病院の詳細はホームページからご覧いただけます。
横浜新都市脳神経外科病院 季刊広報誌 通刊42号

しんとし

平成29年7月号
●発行／(医)明芳会 横浜新都市脳神経外科病院
●編集／地域医療連携室

IMSグループ 医療法人社団明芳会 横浜新都市脳神経外科病院 〒225-0013 横浜市青葉区荏田町 433 番地 Tel.045-911-2011



しんとし

患者さまの「満足」と「安心」を第一に考え、愛し愛される病院を目指しています

特集

脳神経外科医から学ぶ

『脱水症と脳梗塞』

脱水症と脳梗塞の関係について

あいさつ

近頃、新聞を読んでいると、完全1強だったはずの自民党の都議選惨敗、北朝鮮情勢の緊迫化、IS帝国の壊滅寸前、など、自己を客観視せずに謙虚さがなくなってくると、必ず良い未来が待っていないことを改めて実感します。当院も7~8年前と比較すると、入院数も外来患者数も激増しました。これは患者様による当院への信頼が以前より大きくなった証しでもあり、ある意味、とても嬉しく励みになることです。ただ、その一方で、信頼されるために謙虚に誠実にやってきたことが、少しの気の緩みから小さな綻びとなり、やがて大きな失敗に繋がっていくことも、いつも肝に命じなければなりません。医師不足で、外来の待ち時間は延長しており、ハード面での改善が限定されるなかで、少しでも患者様の満足度をあげるためには、今まで以上に知恵を絞り、出来ることを行動に移していかなければなりません。「古いラーメン屋でも、ラーメンが美味しくて、接客がよければ、行列ができる」いつも思うことです。たくさんのお客様が来て下さる、その期待に応えていこう、と現状に満足せずに精進していくことが、若いスタッフの成長にもつながっていきます。猛暑が予想されるこの夏も、暑さに負けずに、謙虚に病院の改善を心掛けて「チーム新都市」で力を合わせて精進していきたい、と思います。患者様には、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、今後とも、叱咤、激励、よろしくお願い申し上げます。

横浜新都市脳神経外科病院 院長 森本 将史



横浜新都市脳神経外科病院
季刊広報誌

平成29年7月号

Vol.42



IMSグループ広報誌
プラザイムス

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気になる情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

特集 脳神経外科医から学ぶ

『脱水症と脳梗塞』

脱水症によって引き起こる脳梗塞。実は脳梗塞は夏に多い病気です。
前兆症状を知り、すぐに対処できる方法を知りましょう。



「脱水症」とは？

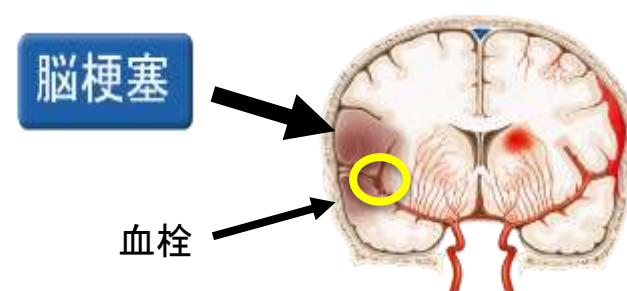
人間の体の約60%は水分でできています。体内の水分は生命活動を維持するために欠かすことができず、人間は毎日水分摂取が必要です。体内の水分は、「体内に入ってくる水分の量」と「体外に出ていく水分の量」によってきまり、前者の割合が多いのは経口摂取される食べ物や飲み物に含まれる水分です。後者の割合が多いのは主に不感蒸泄^{ふかんじょうせつ}と尿です。不感蒸泄とは主に皮膚と息から失われる水分で、気温があがると汗をかくので不感蒸泄の量は増えます。そのため夏場などは知らないうちに水分を失いやすくなります。また汗や尿として体から水分を排出する時、ナトリウムなどの塩分を失うため不感蒸泄や尿量が増えると体内の塩分バランスが乱れやすくなります。

脱水症の初期は口渴感が生じますが、めまいや揺らつきなどもおこり「少し疲れただけ」と思ってしまうこともあります。脱水症がすすむと頭痛や悪心などの体調不良が起こり、ひどい場合には意識障害やけいれんなどを引き起こすこともあります。予防するためには水分補給が有効ですが、1回に多量の水分をとるのではなく、こまめに水分をとる必要があります。

脳梗塞との関係

脳梗塞とは脳卒中の1つです。頭の中の血管が詰まって血流が途絶え、脳に十分な酸素とエネルギーが供給されず障害が生じる疾患です。脳梗塞を起こすと時間の経過と共に脳細胞が死んでしまい、脳の機能が元に戻らなくなってしまいます。脳梗塞は生じる部位によって症状が変わりますが、代表的な症状は片側の手足が動かさづら、呂律が回らない、顔の片方が歪むといった症状です。

脳梗塞の予防には日頃の健康管理が大切で、禁煙はもちろん血圧や血糖、脂質を管理して動脈硬化を予防することが大切です。それに加え、これから暑くなる季節には脱水の予防が必要です。体内の水分を失うと血液の粘度もあがって脳梗塞を引き起こす可能性が高まるといわれているからです。



脳梗塞の最新の治療法

発症間もない脳梗塞に対して、脳の血管に詰まった血栓を溶かして血流を再開通させる【t-PA（組織プラ

スラスミノゲン活性化因子）静注療法】が行われます。近年新たな治療方法として【血栓回収療法】が普及しつつあります。これはカテーテルを用いて脳の血管に詰まった血栓を直接取り除く治療で、特に脳の主幹動脈（脳の太い血管）が詰まった脳梗塞において、従来のt-PA静注療法に加えて血栓回収療法を行うと患者さんの回復効果がより高まります。多くの患者さんが血栓回収療法を受けられるように当院では24時間対応できる体制を整え、9割以上の血栓回収率となっています。早期の発見・受診が大切ですので、脳梗塞が疑われたらすぐに受診をして下さい。

近年、脳卒中は発症早期の治療やリハビリテーションがその後の回復具合を左右することが知られています。脳梗塞の重要な初期治療を効率的に行うために開設されたのがSCUです。



（当院の血栓回収療法の様子）

SCUとは・・・

SCUとは、脳卒中ケアユニット(Stroke Care Unit)の略です。2009年に発表された脳卒中治療ガイドラ

インではSCUで治療することにより死亡率の減少・在日期間の短縮・自宅退院率の増加・長期的な日常生活の質の改善を図る事ができると明記されています。当院では、厚生労働大臣の定める施設基準を満たすSCUを平成19年10月より6床を開設し、平成29年6月に増床、現在18床と神奈川県最大級の規模となっており、多職種からなる脳卒中専門チームで診断・治療を行う体制をとっています。



脳神経外科医 鈴木孝典医師は次のようにコメントしています「脳梗塞は

何の前触れもなく突然やってきて、身体に大きな後遺症を残す病気です。日ごろの健康管理を行い予防することが大切である事は言うまでもありませんが、もし脳梗塞が疑わしい症状が出現した場合、すぐに医療機関を受診して下さい。早期の治療介入が症状の改善に大きな役割を果たします。当院は血栓回収療法やSCUをはじめ、脳卒中に24時間対応できる救急体制を整え日々診療を行っています。」



監修：脳神経外科 鈴木孝典